

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 18日から19日は、日本の東の高気圧が、東・西日本に張り出す。また、気圧の谷が沿海州からサハリン付近へ進む。
- 20日から21日は、低気圧が日本海から日本の東へ進み、気圧の谷が本州南岸付近を通過する。
- 21日から22日にかけて、高気圧が東シナ海から日本付近を移動する。

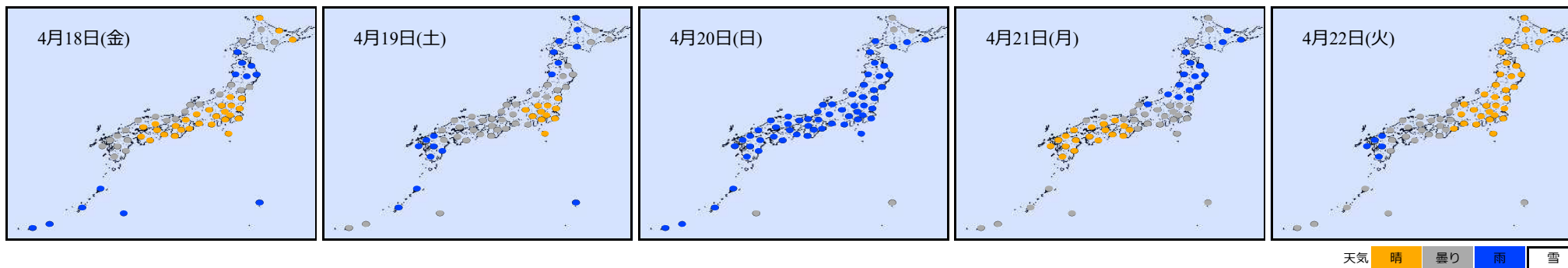
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

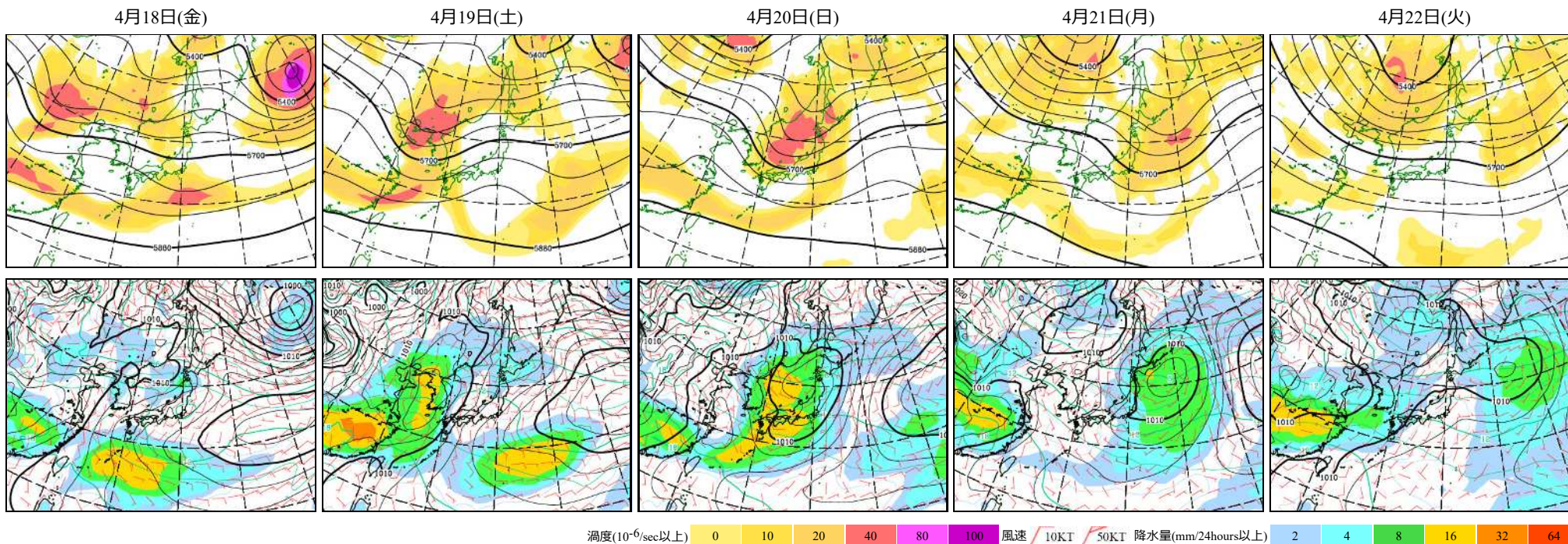
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

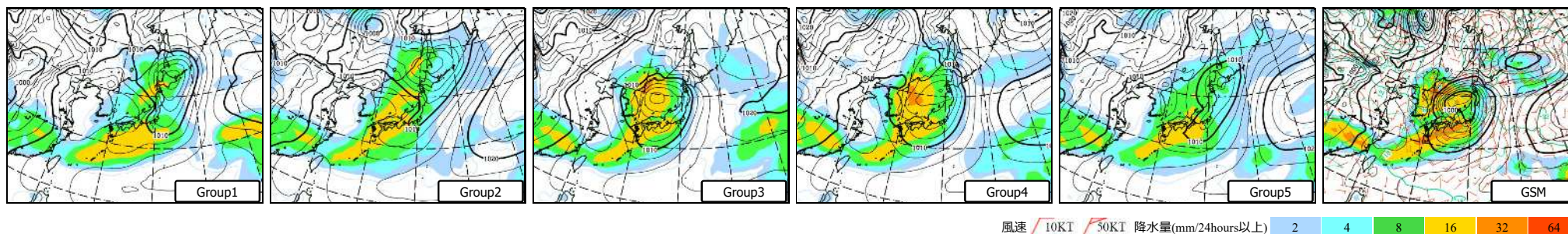


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雨の降る日が多いが、22日は晴れる所が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多いが、20日は雨の降る所が多い。
- 西日本は、晴れまたは曇りの日が多いが、19日から20日と22日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月20日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、20日から21日にかけて日本付近を進むトラフは浅くなり、東進が早くなった。それに伴い、日本海を進む低気圧は発達程度が弱くなり、東進がやや早くなった。
- 19日までは、モデル間の差は小さい。20日以降は、トラフの予想にモデル間の差や初期値変わりがあり、地上の気圧配置の予想にもモデル間の差が大きくなっている。
- 20日の低気圧について、ENSでは日本海に進む予想をするメンバーが多いが、低気圧の位置にはばらつきがあり、南岸にも低気圧を予想するメンバーもある。また、海外モデルに近い予想をするメンバーも含んでいる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、20日頃に日本付近を進む低気圧の予想には不確実性がある。今後、低気圧の予想が大きく変わる可能性がある点に留意。